書籍：「子育て　ハッピーアドバイス　②」を目にして

先に当 HP で書籍：「子育て　ハッピーアドバイス」（「雑学 BN」の「書籍等読後感関係（Ⅲ）」P、2006.03.04.：参照）の読後感を記載したが、続編「子育て　ハッピーアドバイス　②」を店先で見つけ購読した。

第１巻の感想に寄せられた声に、Q ＆ A 形式で応えようと第２巻が発刊されたよう。

子育て中のそれぞれの親からの疑問、不安（例えば、「『子どもを認めることが大切だ』といわれますが、具体的に、どういう言葉をかけたらいいでしょうか」）に、その答えとして、いい係わり方とよくない係わり方が４コマ漫画でそれぞれ描かれており、対照的なだけに実に分かり易い。

著者は、子どもの「自己評価（自分が生きている意味がある、存在価値がある、大切な存在だ、必要とされている、いう感覚のこと）」を育むことこそ、子育ての基本であるという。

また、子育てで“これだけは　忘れてはならないこと”として、「子どもを、自分の持ち物のように思わないこと。子どもといっても、一人の人格ある人間。ここから子どもの気持ちを尊重し、子どもなりの生き方を大切にする姿勢が生まれる。」と説く。

確かに、「親だから」という意識が強過ぎるのでないかと思う子育ての実情をしばしば見聞する。

翻って考えるに、子どもの「自己評価」を育むには、まず大人（親）が、「自己評価」のある人かどうかも問われているような気がする。

「自己評価」のある人（親）だからこそ、相手（子ども）の存在もしっかりと認めることができるのでないだろうか。

最近の子どもによる悲惨な事件報道では、しばしば識者の「今の子どもたちの心の奥底は理解しかねる」とのコメントを見聞するが、少年の「自己評価」の側面からの検証も必要でないだろうか。

また、親による子どもの虐待事件から、「親の育ち直し」という言葉も見聞するが、これとて親の「自己評価」の側面からの検証の必要性を問うているものと思われる。

「自己評価」は、子ども、大人に拘わらず、人と人が係わり合う中でこそ、育まれると思う。

今一度、「自己評価」を互いに育み合う留意すべきヒントが、「子育て」という側面を通してこの第２巻にも書かれているように思う。

自らの「自己評価」の検証のためにも、先の HP の記事にも書きましたが、改めて第２巻もご一読をお勧めします。

（2006 年 4 月 14 日　記）